

(水産調査の歴史)

# 海洋調査の歩み

岡村 信太郎

調査の事、関係を持つ様はつたりのは

私が海洋関係の事を始めたのは明治30年以後であるが、日本に於ける海洋調査の始り(明治27年頃)水産調査委員 和田雄治博士が日本近海に航して其結果を「航の行方」として纏めて発表するであらうと思ふ。其頃の水産は未開時代で松原新之助氏が主となり全国を五海区に分れ水産各方面を調べられた(下管竹氏水産回顧録に於る通り)。当時水産調査所がなかったが明治30年に潰れて水産

## 水産試験場

局内に水産調査課が出来、岸上鎌吉氏が主となり学問的に水産を研究以前より基礎がつけられた。私は明治30年4月水産講習所へ二度目に肩托せられた(2より前)海藻の調査文を出版した。1899年 Hjort & Gran:

Currents and Pelagic Life in the Northern Ocean, Bergens Museum, Skrifter Vol. IV, Bergen がある。其の別刷を貰ったのが私の此の方面に向ふ一の動機となった。水産調査課には岸上氏、其の下に故岡村藤吉氏、(台湾に居る平坂恭介氏、北原多作氏が居た。後)岸上氏は生物学者で事務的なるは也(が)学問に没頭、部下(岸上氏)を以て、(其の)研究に任せて、(其の)部下はめいめい勝手の仕事をやる(た)。(其の)研究に任せて、(其の)部下はめいめい勝手の仕事をやる(た)。

1901年 Christiania の 漢学海洋打合会を岸上氏が張た。明治30年(頃)には北原氏が確か Karimmed の Oceanographie を読んで物理的の海洋調査の要を見、私として Gran & Hjort の本を讀んで海況、生物

浪の

(水産)

海洋調査の歩み

2

V

